

ワシントン駐在 活動記録

平成31年(2019年) 4月1日(月)～4月30日(火)

1 大学での概要説明

(1)日 時：4月8日(月)9:30-11:30

(2)場 所：ジョンズ・ホプキンス大学

ジョンズ・ホプキンス大学のウィリアム・ブルックス教授のクラスの学生約10名に対し、沖縄の基地問題について概要説明及び質疑応答を行った。このイベントは昨年引き続きブルックス教授からの依頼で実現したものとなる。

ワシントン駐在からは、事務所の紹介、普天間飛行場の移設問題の現状、県民投票の結果などについてのレクチャーを行った。

ワシントン事務所を設置する前と後でどう変わったか、どのようなことが達成されたか、普天間飛行場の移設問題などの質問が寄せられた。

2 さくら祭り2019 ジャパン・ストリート・フェスティバル出展

(1)日 時：4月13日(土)10:30-18:00

(2)場 所：ワシントンDC ペンシルベニア・アベニュー

(3)対応者：ワシントンDC事務所、ワシントンDC沖縄会

ナショナルフェスティバルと位置づけられるさくら祭りに沖縄県が初出展した。

出展にあたり、ワシントンD.C. 沖縄会の役員等と調整を行い、同会の支援の下、約3ヶ月にわたり企画や準備を行った。

当日、早朝の準備開始直前まで雨が降っていましたが、開場後は天候に恵まれ大変な盛況となった。

沖縄のブースには、「OKINAWA」の看板や軽快な沖縄音楽の効果もあり、オープンから終了まで来場者が途切れることなく訪れていた。

ブース前では、空手演舞、歌・三線、子どもエイサーのグループによるパフォーマンスに加え、ボランティアが提供した約1000個のサーターアンダギーを振る舞い、好評を博していた。

またブースでは、紅型衣装、男性着物を着て写真撮影を行うコーナー、紅型折り紙やしおり作りなどのクラフトコーナーが設けられ、長い列が出来ていた。

これまで舞台参加だけだった沖縄関係者からは、演舞だけでは「沖縄」をアピール出来なかったが、今回の出展参加により、沖縄のアイデンティティを表現することが出来たと喜ばれた。



3 米海軍兵による日本人女性殺害事件に関する国務省との面談

- (1) 日 時：4月23日（火）15:30～15:45
- (2) 場 所：米国務省東アジア太平洋局内会議室
- (3) 対応者：国務省職員
- (4) 内 容：米海軍兵による日本人女性殺害事件に関して、沖縄県ワシントン事務所から米国務省に申し入れ、4月23日午後に面談を行った。面談においては、玉城知事から在沖米軍地域調整官及び在沖米国総領事に宛てた抗議文書の内容を共有し、再発防止に向けた取組の必要性を伝えた。

4 笹川財団主催日米安保フォーラムへの参加

- (1) 日 時：4月24日（水）8:00～17:30 ※午後の部を傍聴
- (2) 場 所：ウィラードインターコンチネンタルホテル
- (3) 参加者：100名程度

5 ブルッキングス研究所「尖閣パラドックス」出版記念シンポジウムへの参加

- (1) 日 時：4月29日（月）10:30～11:30
- (2) 場 所：ブルッキングス研究所
- (3) 参加者：50名程度
- (4) 内 容：マイケル・オハンロン氏の近著「The Senkaku Paradox」の内容を踏まえた対談。（聞き手：レイチェルマーティン女史（ニュースキャスター））